2020年12月18日第68回運輸政策セミナー
「Nextインバウンド」シリーズvol.３　宿利会長　開会挨拶

皆様こんにちは。運輸総合研究所会長の宿利です。
本日も、大変多くの皆様にこのセミナーにご参加いただきました。誠にありがとうございます。

さて、この「Nextインバウンド」シリーズは、ポストコロナの時代において必要となる新たなインバウンド観光戦略や観光関連施策につきまして、有益な示唆や手掛かりを与えていただける方々をお招きして、皆様と一緒にこのテーマを考えていこうというものであります。

過去２回のセミナーにおきましては、まず関西国際大学の李教授から、はるか昔から世代を超えて継承されてきた日本人の精神性や日本の文化・伝統を観光に結び付けることや、地域の魅力を発掘すること等、日本人自身には見えない新しい見地から観光を創り出すことの重要性についてのご指摘がありました。
２回目はグローカル交流推進機構の横江様でしたが、横江様からは、インバウンド観光の真の意義を再認識することや、新型コロナウイルスによるこの逆風を、地方及び都市がコロナ禍以前から抱えていた各種の課題を解決するためのチャンスだと捉えて、観光戦略を練っていくことの重要性が指摘される等、さまざまな重要な示唆を提言としてお示しいただきました。

本日は､「ポストコロナのインバウンド“Every cloud has a silver lining”」と題しまして、国際観光サービスセンター成田国際空港ツーリストインフォメーションセンターの所長を務めておられます辻村様にご講演をいただきます。
既に全世界の感染者数が 7,500 万人を超え、今なお拡大を続ける新型コロナウイルスによるパンデミックは、我が国のインバウンド観光需要を文字通り「蒸発」させてしまいましたが、辻村様の講演のサブタイトルにもありますように、このような未曾有の危機でありましても、いずれ必ず乗り越えられるときが来る、その先には新しい形の未来が待っている、と私もそのように思っております。
その時のために、今こそこれまでのインバウンド観光のあり様をゼロから見直し、来たるポストコロナの時代において日本の強みを活かすための持続可能な戦略を作っておくことが重要です。

本日は、辻村様からご自身の豊富な経験を皆様と共有していただき、新たな観光戦略や施策についてのご示唆をいただきながら、皆様と一緒にこの課題について考えていきたいと思います。

また、辻村様からのご講演の後、コメンテータとして、当研究所の客員研究員でもある文教大学の小島教授からコメントをいただき、その後にいつものとおり、山内所長がモデレーターとなりまして、対談及び皆様方との質疑応答という流れで進めていきたいと思います。

最後に、本日のセミナーがご参加いただきました多くの皆様方にとりまして真に有益なものとなりますことを期待いたしまして、私の冒頭の挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございます。

（以上）